慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	明治三年・吉田藩三間騒動の裁判記録
Sub Title	The document of the judgment in the peasant uprising in the Yoshida Clan, 1870
Author	手塚, 豊(Tezuka, Yutaka)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1988
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.61, No.9 (1988. 9) ,p.73- 98
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19880928-0073

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

資料

明治三年・吉田藩三間騒動の裁判記録

手塚　豊

解題

明治三年四月、伊予の吉田藩で勃発した農民一揆は、いわゆる「三間騒動」として知られている。そしてこの事件に関する史料紹介あるいは研究論文は、現在までに相当多くのものが刊行されている。

戦前では、昭和二年に出版された「近世経済叢書」第十一巻に、愛媛県庁所蔵の文書（例えば吉田藩紀、吉田藩庁日記など）を中心にかなり多量の根本史料が収録された。(1)

つづいて昭和六年出版の土屋喬雄、小野道雄編「明治初期農民騒擾録」に「明治三年三月宇和郡三間郷騒擾」として、この事件に関する記事が掲載されている。(2)この記事の出典は、当時の内閣文庫に所蔵されていた「府県史料」の「愛媛県史料」中の関係記事であり、(3)その内容は前掲「近世経済叢書」に収録の「吉田藩紀」中の「三間郷農民騒擾始末」と全く同じものである。

さらに、昭和九年出版の「東宇和郡沿革史」にも簡単ながら、この事件の概況が書かれている。(4)

戦後の昭和三十七年、地元の愛媛県において、この事件に関

する厖大な史料集が刊行された。松山の近代史文庫が企画した「明治初期農民運動史料」第三輯「吉田藩」がそれである。これは前掲「近世経済叢書」に覆刻されたものをふくむ各種史料十数点を、謄写印刷で出版したのである。[5]当時、判明している地元の残存史料のほとんど全てを網羅したものとみていい。

つづいて三十九年出版の「三間町史」は、この事件を「宮野下騒動」と称し、約四頁に亘って紹介している。[6]

さらに翌四十年出版の「愛媛県農業史」[7]にも、この事件に関連する記事があるが、これは簡単である。

同年出版の松浦泰氏の「南予の百姓一揆」の中にも「三間騒動」がある。[8]これは読物風の著作ではあるが、その内容はかなり詳しい。「松浦泰」は、三好昌文氏の筆名である。[9]三好氏はその後、昭和四十三年に発表された「明治維新期における階級闘争――南予（宇和島・吉田藩―愛媛県宇和郡）の場合――」[10]、さらに四十八年に発表された「伊予宇和郡における農民闘争」[11]において、それぞれ三間騒動に論及されている。

また、昭和四十三年出版の「日吉村史」も、「宮の下騒動」として、この事件を採りあげていた。[12]

他方、愛媛郷土史の泰斗景浦勉氏は、昭和四十六年の「伊予史談」に「明治三年の三間農民騒動について」を発表され、[13]さらに翌四十七年に出版の「伊予農民騒動史話」の中にも「三間騒動――世直型百姓一揆の一例――」を掲載された。[14]

翌四十八年出版の「愛媛県警察史」第一巻には約四頁に亘って、この事件が要領よく紹介されている。[15]

昭和四十九年出版の田中歳雄氏の「愛媛県の歴史」[16]は、この事件を採りあげてはいるが、僅か数行の記事にすぎない。

さらに昭和六十年発行の「愛媛県百科大辞典」[17]には「三間騒動」の項があり、その大要が紹介されている。

そしてまた、愛媛県庁が編さん中の厖大な「愛媛県史」の中には、昭和六十一年発行の「愛媛県史・近代上」[18]の中に「三間騒動」として四頁ほどの記事があり、さらに翌六十二年発行の「愛媛県史・資料編（幕末維新）」にも、「三間騒動」[19]として「吉田藩日記」の関連個所が覆刻、収録されている。

三間騒動に関する研究論考あるいは史料紹介で、私が寓目し得たものは、以上の通りである。

ところで、この事件の結末として関係者にどのような刑事処分が行われたのか、その点を詳しく考察した論考はまだ出ていないが、前掲「明治初期農民運動史料」に覆刻されている史料により、一応のことは明らかになっている。すなわち、それには徒刑、禁錮あるいは禁足などの処分をうけた多数の附随犯の者に関しては「吉田藩紀稿本」の記事が引用されており、[20]また主謀格の嘉之寸計、藤吾、国三郎、庄吉、卯吉、弥惣治、喜代太郎については「吉田藩糺弾掛日記」の内容が詳細に引用されているからである。[21]

それによると、主謀者については、嘉之寸計[22]と藤吾は明治四年四月二十一日に絞罪の宣告をうけ、二十三日に町中引廻しの

上、十本松空地で新設の器械[23]によって刑が執行され[24][25]、また国三郎、庄吉、卯吉は四月四日に「準流」「十ヶ年徒罪」、弥惣治は「三ヶ年徒罪」をそれぞれ言渡され、牢死した喜代太郎は「存命ならば準流、十ヶ年徒罪」の筈で「跡家督家財欠所」を言渡された[26]。しかし、死刑をふくむ重罪犯に対する処分は、吉田藩が独自に行う筈はなく、必ず刑部省の指示を仰いだ筈である。嘉之寸計、藤吾に対する言渡書に「本文絞罪之儀者兼而伺之通従朝廷も御差図に付被仰渡候事[27]」という朱書の付箋が附いているのは、それがためである。

ところが、吉田藩と刑部省との間に取り交わされたと思われる文書は、いままで覆刻されている吉田藩の諸記録の中には、全く見当らない。ということは、右様の文書は、現在、地元には全く残存していないためと思われる。

私は数年前、そうした記録が戦前に司法省が保管していた文書の中に、存在していることを知った。その文書は「伊予国宇和郡高野子村嘉之寸計外六人御仕置伺書」と題するもので、その内容は明治三年十二月、吉田藩が刑部省に提出した処刑伺と、それに対する刑部省の指令であり、さらにその文書には関係者五名の吉田藩法廷における口書（陳述書）が添付されている[28]。この関係者の口書も、地元の記録の中には見当らないものである。

これらの文書は、いうまでもなく三間騒動に関する極めて貴重な史料であるとみていい。ここにその全文を覆刻、発表する所以である。

次に各文書の内容も、解説しておく。

○吉田藩[29]より刑部省への伺

この伺によると、嘉之寸計、藤吾、国三郎の三名は「徒党」の「魁首」として「梟首」、庄吉、卯吉、弥惣治は「魁首ニ等敷」者と認め「斬首」として上申、喜代太郎は牢死のためとくに量刑を定めていない。明治三年十二月当時、新律綱領（明治三年十二月頒布）はまだ吉田藩には到着していない筈であるから、吉田藩では成文の準拠法を示すことなく、ただ「天下の御大禁」を犯したとして主謀者と認めた六名全員に死刑を求めたのである。

○刑部省の指令

付箋の形で行われている。この方式は、当時の通例である。指令の年月は明らかでないが、文書の冒頭に「辛未二月九日」と書かれているから（本稿七八頁参照）、これが指令の日であったかも知れない。

刑部省の指令は、頒布早々の新律綱領の条項に準拠したものである。すなわち綱領の「賊盗律」兇徒聚衆の条の中の「若シ地方ノ兇荒ニ乗シ。衆ヲ聚メ。良民ヲ擾害シ。官長ヲ挾制シ。及ヒ賑貸、稍遅キニ因テ。村市ヲ槍奪シ。官廨ニ喧鬧シ。及ヒ私憤ヲ懐挾シ。衆ヲ聚メテ。市ヲ罷メ。官ヲ辱ムル者。並ニ首ハ。絞。従ハ。流三等」に拠ったものと思われる。この場合、「従」の「流三等」は、明治三年十一月十七日・太政官達のいわゆる「準流法」によって実質的には削除され、五年、七年、

十年の準流徒刑に換刑されていた。[30]

刑部省は、嘉之寸計、藤吾は「魁首」として「絞」[31]、魁首に準ずる国三郎、庄吉、卯吉については「準流十年」とし、喜代太郎についても「存命ならば準流十年」とした。また弥惣治については「情軽キ者例ニ依リ一等ヲ減」じて「徒三年」とした。綱領の「名例律」加減罪例の条によると「流罪ヲ犯スニ、一等ヲ減スレハ、徒三年」とあるからである。

刑部省の指令は、吉田藩の求刑よりも格段と軽いものであった。そして前述の吉田藩の関係者に対する判決は、全て刑部省の指令をそのまま遵守したものであったのである。

符箋に捺されている印鑑は、この指令に関与した刑部省官員のそれである。「宍戸」は少輔宍戸璣、「青木」は大丞青木信寅、「沢」は大丞沢簡徳、「鳥居」は少丞島居重雄、「塩坪」は少丞塩坪恭信、「松本」は大判事松本暢、「津田」は中判事津田真道、「鶴田」は少判事鶴田皓、「岡内」は中判事岡内重俊である。[32]

。嘉之寸計、藤吾、国三郎、庄吉、外吉、弥惣治の口書

いままで地元の愛媛県で覆刻された史料は、主として吉田藩庁側の文書であるが、この口書は被告側の記録である。その点、珍らしくもあり、また貴重である。これらの口書の内容を十分に分析し、且つ比較検討すれば、彼等六名が事件の中において、それぞれ果した役割りがわかるばかりでなく、事件そのものの動向がきわめて詳細に判明するであろう。

（1）「吉田藩三間騒動」・「近世経済叢書」第十一巻・昭和二年・九八頁―一八四頁。同書収録の史料の内、「三間郷農民騒擾始末」、「裁判要略」、「明治三年吉田藩庁日記抜要」は、昭和五年出版の小野武夫「維新農民蜂起譚」に再録されている（四八八頁以下）。

（2）土屋喬雄、小野道雄「明治初期農民騒擾録」・昭和六年・四八九頁―四九一頁。

（3）内閣文庫蔵「府県史料」中の「愛媛県史料」第四十一巻。この「三間郷農民騒擾始末」は、昭和五十一年出版の「愛媛県各藩沿革史略」の中にも覆刻されている（七五頁以下）。

（4）「東宇和郡沿革史」・昭和九年・二七三頁以下。

（5）「明治初期農民運動史料・第三輯――吉田藩――」・「愛媛近代史料№6」・昭和三十七年・全一四〇頁。

（6）「三間町史」・昭和三十九年・九一頁以下。

（7）「愛媛県農業史」・昭和四十年・二七四頁以下。

（8）松浦泰「南予の百姓一揆」・昭和四十年・一五五頁以下。

（9）青木虹二「百姓一揆史料目録」・「日本庶民生活史料集成」第一三巻（騒擾）・昭和四十五年・八二五頁。

（10）三好昌文「明治維新期における階級闘争――南予（宇和島・吉田藩―愛媛県宇和郡）の場合――」・「愛媛資本主義社会史」第一巻・昭和四十三年・三七六頁以下。

（11）三好昌文「伊予宇和郡における農民闘争」・佐々木潤之介編「村方騒動と世直し」下・昭和四十八年・一三九頁以下。

（12）「日吉村誌」・昭和四十三年・四一頁以下。

（13）景浦勉「明治三年の三間農民騒動について」・「伊予史談」第二〇〇号特集・昭和四十六年一月・二七頁以下。

（14）景浦勉「伊予農民騒動史話」・「愛媛文化双書」10・昭和四十七年・一九二頁以下。

（15）「愛媛県警察史」第一巻・昭和四十八年・二三七頁。

(16) 田中歳雄「愛媛県の歴史」・昭和四十八年・一八五頁。
(17) 「愛媛県百科辞典」下・昭和六十年・三〇五頁。この項の執筆者は池田忠生氏である。
(18) 愛媛県史・近代上」・昭和六十一年・二三頁以下。
(19) 「愛媛県史・資料編（幕末維新）」・昭和六十二年・九〇三頁以下。
(20) 前掲「明治初期農民運動史料」・五〇頁以下。
(21) 前掲書・五六頁以下。
(22) 主犯の嘉之寸計を「嘉乙」と誤記した文献もある（前掲「愛媛県百科大辞典」下・三〇五頁）。
(23) 「吉田藩糺弾掛日記」の明治四年四月十三日の条に「絞罪之道具類出来ニ付云々」という記事がみえている。（前掲「明治初期農民運動史料」・五六頁）。絞罪の器械は、明治三年十二月頒布の新律綱領によって「絞柱」が制定された。四年四月当時、吉田藩ではその設備がなかったため、新らたにその器具を製作したものと思われる。
(24) 前掲「明治初期農民運動史料」・五七頁―五九頁。国立公文書館蔵「公文録 自己巳六月 至辛未七月・吉田藩」によると、藩は太政官に対し次のような届を提出している。

農民沸騰魁首喜之寸計外一名処刑届

吉田藩管轄
伊予国宇和郡元高野子村
嘉之寸計
辛未五十歳
同国同郡元同村
藤　吾
辛未三十歳

右ノ者刑法伺済相成候去庚夏管下農民沸騰ノ魁首ニ御坐候処当未年四月廿三日於藩地絞罪ニ仕置候段此段御届申上候

(25) 嘉之寸計は斬、藤吉他一名は準流十年とした史料もある（土屋、小野・前掲「明治初年農民騒擾録」・四九一頁、「三間郷農民騒擾始末」・「三間騒動頭取戸籍に関する件」・前掲「近世社会経済叢書」第十一巻・一〇一頁、一八四頁、前掲「愛媛県各藩沿革史略」・七七頁など）が、これは明らかな誤伝である。前掲「東宇和郡史」・二七四頁および前掲「愛媛県警察史」第一巻・二三九頁―二四〇頁は、この誤りをそのまま祖述している。
(26) 前掲「明治初期農民運動史料」・五六頁。
(27) 前掲書・五八頁。
(28) 法務図書館蔵「諸藩口書」明治四年・第三冊。
(29) この頃、藩の司法機関は「糺弾局」であったから（前掲「愛媛県各藩沿革史略」・六八頁）、同局で裁判が行われたものと思われる。しかし関係役人の氏名は残念ながらわからない。
(30) 流刑の受入地の北海道に、その設備が整っていないので、実際に流刑は不可能であった。それがため「準流法」が制定されたのである。
(31) 刑部省は、死刑については太政官の指示を仰いだ筈であるが、それについての文書は見当らない。
(32) 明治四年六月「職員録」・八二枚表裏、八五枚表。

前註

(1) 吉田藩伺書中のゴジのところは、刑部省指令の量刑と一致するから、その指令が出されたとき、刑部省の者が伺書に加筆した文字と思われる。したがって伺書の原文にあった字句ではない。
(2) □は付箋を示す。

辛朱　二月九日

伊予国宇和郡高野子村嘉之寸計外六人御仕置伺書

吉田　藩

伊予国宇和郡高野子村嘉之寸計六人吟味仕候処左之通

伊予国宇和郡高野子村百姓隠居

嘉之寸計

絞罪

午五月廿四日入牢　　午四十九歳

兇徒聚衆首タル者	宍戸	不明	塩坪	鳥居
絞罪	不明	不明	不明	青木

嘉之寸計

百姓隠居

藤　吾

同

午五月廿四日入牢　　午三十歳

兇徒聚衆首タル者	宍戸	沢	不明	青木
絞罪	不明	鶴田	岡内	鳥居

藤　吾

百姓

国　三　郎

準流十年

午六月朔日入牢　　午三十八歳

兇徒聚衆従タル者	不明	青木	塩坪	松本
準流十年	津田	鶴田	岡内	鳥居

国　三　郎

同国同郡鍵山村　百姓

喜代太郎

同

午五月廿四日入牢　　午六十四歳

兇徒聚衆従タル者	宍戸	青木	不明	沢
存命ニ候ハヽ	松本	津田	鶴田	岡内
準流十年				鳥居

喜代太郎

同国同郡高野子村　百姓

庄　吉

同

午五月廿八日入牢　　午三十八歳

兇徒聚衆従タル者	宍戸	青木	沢	不明

準流十年

松本　津田　鶴田　不明　鳥居

庄　吉

同国同郡延川村　百姓

卯　吉

午四十歳

同

午五月廿六日入牢

兇徒聚衆従タル者

不明　沢　塩坪　鳥居

外　吉

準流十年

松本　津田　鶴田　岡内　青木

同国同郡川上村　百姓隠居

弥　惣　治

午五十八歳

徒三年

午五月廿六日入牢

兇徒聚衆従ニシテ情軽キ者例ニ依リ一等ヲ減ス

不明　不明　鳥居　青木

弥　惣　治

徒三年

鶴田　津田　岡内　松本

右嘉之寸計藤吾国三郎儀天下之御大禁ヲ犯シ徒党ヲ企候魁首不届ニ付梟首可申付哉庄吉卯吉弥惣治儀是亦天下之御大禁ヲ犯シ徒党ヲ企候魁首ニ等敷不届ニ付斬首可申付哉

本文喜代太郎ハ入牢後病気ニテ吟味不渡以前病死仕候

一嘉之寸計儀聊ノ貸下ケ銀札返上ニ迫リ候ヨリ姦謀ヲ廻シ藤吾国三郎申合廻状認貫配下之者共令出村及強訴小倉村出目村荘屋処ヲ乱妨シ剰役人ヲ令打擲其節其場ニ不居合ニハ候得共抑事ヲ目論見候ヨリ右之次第ニ押移尤悪念ノ萠シハ上鍵山村徳松下申者ノ心底ヲ探聞宇和島藩配下之様子モ聞積リ宇和島藩配下古市村助市ト申者江末事ヲ不起以前ニ廻状ヲ頼ミ内意咄シ致藤吾江面会之節姦謀ヲ胸中ヘ陰シ互ニ出シ合咄シヨリ斯事件ニ立至リ此者悪事ヲ企候根源ニ御坐候

一藤吾儀聊ノ貸下ケ銀札返上ニ迫リ候ヨリ姦計ヲ廻シ嘉之寸計国三郎申合廻状認貫ヒ宇和島配下ヨリ到来ノ書状ト偽リ差出シ配下ノ者共令出村及強訴小倉村出目村庄屋処乱暴剰役人ヲ打擲其節其場ニ不居合向ニハ候得共抑事ヲ目論見候ヨリ右之次第ニ押移已カ罪ヲ遁レン為メ病気ニ事寄荘吉江事ヲ托シ宮野下村ニテ衆人ノ力ヲ借リ不筋ノ嘆願及強訴候者ニ御坐候

一国三郎儀聊ノ貸下ケ銀札返上ニ迫リ候ヨリ姦計ヲ廻シ嘉之寸計藤吾申合廻状認貫ヒ配下ノ者共令出村及強訴小倉村出目村荘屋所乱暴剰役人ヲ打擲其節其場ニ不居合向ニハ候得共抑事ヲ目論見候ヨリ右之次第ニ押移且召捕之節神参リト唱ヘ令他出其場ヲ避居候者ニ御坐候

一莊（ママ）吉儀魁首ニ等敷悪計ヲ廻シ専先立令世話小倉村莊屋所乱暴役人ヲ打擲其後入込候役人ヲ狸役人参候ニ付竹鎗ヲ構ヘ鉄炮ニ玉ヲ込メ抔ト申清延村馬場ヨリ魁首代ト成此処ヨリ宮野下村ヘ立越候発言致シ宮野下村ニテモ先立彼是令世話候者ニ御坐候

一卯吉儀魁首ニ等敷抑出村之節出張之役人並庄屋申付ヲ不相用村人ヲ誘引出シ姦悪ヲ廻シ専先立掛引等致シ上鍵山村ニテ魁首穿鑿中籤押指図致シ小倉村出目村莊屋所乱暴清延村馬場宮野下村ニテモ専先立令世話川上村弥惣治申合遅延ノ村々誘引ノ為人数ヲ指向候筈ニ相談且嘆願書取上ニ至リ申付ヲ不相用暴言ヲ吐引取之期ニ至候テモ己ノ姦悪ヲ掩隠サン為主謀ヲ捜索シ又後日召捕ニ及フ之節共ニ出テ是ヲ妨ケント川上村弥惣治申合候者ニ御坐候

一弥惣治儀魁首ニ等敷宮野下村江屯集中主謀ニ先立延川村卯吉申合遅延之村々誘引ノ為メ人数ヲ指向候筈ニ相談致シ吉田町方江酒肴ヲネダル発言シ且嘆願書取上ニ至リ引取農事可励様申聞候処不相用暴言ヲ吐剰引取ノ期ニ至リ己ノ姦悪ヲ掩隠サン為主謀ヲ捜索シ又後日召捕ニ逮之節共ニ出テ是ヲ妨ント発言致シ候者ニ御坐候

右之通御座候御仕置之儀別帳口書六冊相添此段相伺申候　以上

明治三年午十二月

吉田藩

高野子村百姓嘉之寸（ママ）斗吟味口書

吉田藩

高野子村百姓　隠居
嘉之寸（ママ）斗
午四十九歳

問

其方此度徒党ヲ企鉄炮鍬鎌等ヲ持参為致道々炮発致シ諸村ヲ為驚怖強勢ヲ以テ誘引出シ小倉村出目村両庄屋所ヲ及乱暴出張御役人之命ヲモ敢不聞入却而令打擲宮野下村江押出し数日逗留之上御支配地中ヲ呼寄不筋之嘆願差出シ候ニ付夫々加談之者共御召捕相成（ママ）嘆味之上委細相顕候ニ付此上者不包初発より之次第有躰之処可申出候若相陳候義有之ニ於テハ厳敷拷問可申付候

答

仰之通当三月廿二日宇和島御藩下古市村住人藤掛壱伎弟助市と申者日頃入魂ニて尋参候ニ付私申ニハ野村ニ於テハ百姓共嘆願仕候処御採用ニ相成候義モ有之由比節風説も有之其実情ハ不相分候ヘ共定而一統之仕合と相祭申候何卒実事ヲ聞候ヘハ拙者ニも為聞呉候事ハ相成間敷哉且又周知郷十ケ村江も時宜ニ寄相談之義も御座候ヘ共百姓之身分字ヲ不知候ヘ者其元自然書状でも入用之時ハ書て被遣候哉と相頼申候処右助市申ニハ拙者之手ニ叶候事なれハ兎も角も可致段申述候テ助市ハ

罷帰申候其後助市参リ候ニ付兼而頼置候事ハ心実受合呉候哉
と相咄然ル処助市申ニハ此場ニ而ハ如何歟と存候ニ付古市村
伊左衛文方(ママ)迄被申越候ヘハ調筆ハいたして可遣段申聞其尾ニ
つれて助市又申ニハ御藩下川上村辺ヲ往来致シ候処どふか出
訴之朋ハ御坐候ニ付令書状なりと差出候ヘ者桶□ヲシて水魚
ヲ集候も同様ニシてまたたく内ニ群集せんハ必定之様たとへ
を引て相咄申候其後同輩藤吾尋参候て相咄候ニハ宇和島御藩
下ニハ出訴致シ候而何か御聞届ニも相成至極百姓共之仕合相
成候由当方も兼而御拝借銀返上之限月ニも相成銀子調達之工
風も付兼且亦御拝借有る面々ハ難渋之義と察すれハ今此機会
を不失世話を起シ候ヘハ御拝借モ終ニハ御用捨可相成哉と相
述候私答ニハ大体其手当ハ致シ居候ヘ共是以て人之手ニ有之
銀子故丁度当テニハ不相成心配ニハ存候ヘ共此方斗にも無之
村内ニも御拝借致シ居難渋之趣ニ付心積リ之事も有之旁以古
市村助市江書状調筆頼置候ニ付貴様も同意之事なれハ彼方江
書状ヲ頼ニ参リ呉不申哉と相咄シ候故藤吾申ニハ国三郎迚も
困窮ニ而御拝借返上ニ当惑すれハ大体同心ハ致シ候哉と相答
罷帰申候同廿七日私方江藤吾国三郎両人共参リ時日約定之通
相互ニ相談罷成候処国三郎私古市村江可参段決定いたし両人
同道ニ而出懸候処杖野之村辻堂迄参リ暫ク堂ニ而相休候候折
柄助市義民家より立出候ニ付堂上江呼寄書状之義相頼候処早
速受合呉候ニ付来ル廿九日正四ツ時を相図として御在所駄場
江一統寄合可申且又草鞋弐足大縄壱筋米弐升持参可致様相認
呉候段相頼私之心付ニ而宇和島人も両三人ハ参リ候事を書加
ヘ呉候様申入候而私国三郎ハ夫より助市江相別れ罷帰申候翌
廿八日私方江藤吾国三郎参り合候折柄昨日相頼置候書状出来
候由ニテ助市参リ呉都合書状四封相渡呉候ニ付一封ハ国三郎
受取三封ハ藤吾受取触出シノ相談相成候処国三郎申ニハ下寄
辺ニハ出訴とか申噂も有之慥なる事之儀被察候段相咄シ候ニ
付私申ニ者此方より事を始候而者後日之難儀ニ可相成故先暫
く下寄辺之様子を見合候而触出し候事ハ相扣候方理方ニ付藤
吾国三郎両人共其向ニ相心得候様相通し置申候同廿九日私方
江国三郎参申ニ者昨夜深更相成鍵山村喜代太郎罷越候而相咄
シ候ハ市郷目付様庄屋所江御出浮相成御達候処者宇和島御藩
下百姓共一揆ヲ企て強訴ニ及候由渠等之悪業を見習候而ハ不
相済候ニ付互ニ切磋シて御上ヘ御苦労ヲ不相懸様一統申合候
段御達ニ付其村内之者之処ハ貴様引受取締呉候様応々申述候
て引払候ニ付此事者如何相斗可申哉と相談ニ参候ニ付私答ニ
ハ村内江早速相触不申候而ハ不相済候ヘ共此頃ハ人気も不穏
もシ若輩者江相触候而ハ自然気ニ不叶してハ猶々不宜候ニ付
年輩之者を以為触候方可然段相咄申候四月(ママ)朝早速私方ヘ藤吾
参申ニハ鍵山村江拾ケ村百姓相集候処何故之出訴カ実情都而
不相分して既ニ衆口荒々敷相成同志争ニ相成候趣報知御座候
ニ付同道シテ出懸呉候様藤吾より申出候ヘ共私儀疝(慰カ)積ニテ相
勝不申候ニ付快気之上跡より罷越候ニ付役所迄者参り候様相
答申候同四日宮野下村より度々迎之者指越候得共疝(ママ)積ニ而気

分を悩し実ニ参リ兼候得共同輩ニ申訳も相立兼候故無拠出浮候得共一両日之間ハ相休候テ追々快方相成候ニ付同輩之者より嘆願之条々相談仕候ニ付専ら延川村卯吉川上村弥惣治鍵山村喜代太郎藤吾国三郎庄吉私共ニ相談仕候て御出張之御役人様江嘆願書差上候処同十一日御裁許御座候ニ付早速引取可申処一統帰村不仕候ニ付事情承合候処徒党之魁首相頭不申ニハ後害ニも可相成候ニ付鍵山村宿江藤吾私同道罷越候処鍵山村喜代太郎藤吾両人より何等之時ニハ魁首と名乗可申段相決候ニ付藤吾証人ニハ私庄吉鍵山村喜代太郎証人ニハ同村徳松兼吉相成約定畢而百姓中ニハ安心仕候而同十二日総引取相成申候

問

其方天下之御大禁ヲ犯宇和島藩下古市村助市江諾シ彼方援乱之次第ヲ探索致シ其情実を聞テ百姓中ヲ徳誘之ため再度も書状を助市江頼同輩藤吾出逢而候相互ニ悪事之心意ヲ明シ合国三郎同心ニ寄て渠諸共古市村江立越書状ヲ為認右書状ヲ差出候節下寄辺変動之機と考へ書状触出シヲ指留己ノ罪を他江譲らんと事ヲ構へ宮野下村ニ於テモ嘆願之ケ条専ら差図致シ魁首詮義之節も其罪ヲ藤吾江相譲リ証人と相成候へ共援乱強訴え其根元たる者ハ他ニ可在哉依之罪科至当之御裁許被仰付候而も恐入心底ニ候哉

答

仰之通藤吾国三郎申合不容易悪事ヲ企衆氏ヲ動揺為仕候義ハ全私共之所業ニ而重々奉恐入候最早此上ハ如何体被仰付候共奉恨候義ハ候無御坐候

嘉之寸計

高野子村百姓藤吾吟味口書

吉田藩

高野子村百姓　隠居

藤　吾

午三十歳

問

其方此度徒党ヲ企鉄炮鍬鎌等ヲ持参為致道々炮発致シ諸村ヲ為驚怖強勢ヲ以誘出シ小倉村出目村両庄屋所ヲ及乱暴出張御役人之命ヲモ敢而不用却而令打擲宮野下村江押出シ数日逗留之上御支配地中ヲ呼寄不筋之嘆願差出候ニ付夫々加談之者とも御召捕相成吟味之上委細相頭候ニ付此上者不包初発より之次第有躰之処可申出候若相陳候儀有之ニおいては厳重拷問可申付候

答

私儀病身ニ御座候而当春倅正次郎江家督相続為仕隠居罷在候然る処此度徒党相企候儀ハ去冬及困窮紙漉元銀拾五貫目拝借仕当三月返上可仕御定ニ御座候処都而手当無御座如何可仕哉と当惑仕居候折柄宇和島御藩下百姓共徒党之上野村江出訴致

シ候処願向も多分御聴済ニ相成至極都合振も宜様承リ候ニ付当藩御支配地ニおいても右様出訴等仕候得者責而ハ年賦之御取立ニモ可相成と悪心相生シ村内難渋者之様子寄々相探リ候内三月廿二三日之頃御庄屋より呼使参リ候ニ付罷越候処被申聞候ニ者此頃宇和島御支配地ハ余程騒動有之候趣若御当方ニ而モ当時勢之事ニ而無之とも難申何等右様ノ儀承リ候得者早速相咄呉候様被相頼候ニ付委細相心得候間返答仕罷帰申候其後同村国三郎方江罷越返上銀手段付不申当惑之咄シ仕候処国三郎も同様困窮仕居互ニ思案仕候折柄風と宇和島御支配地騒動之咄ニ相成私より出候ニ者此間庄屋江被呼候処手前ニ不審ヲ被掛候哉探る様な咄も有之候併騒動テモ起シテ見よふかと戯なから相咄シ其日ハ別而相談も不仕相別れ罷帰り申候同廿四日同村嘉之寸計方へ罷越宇和島御支配地者出訴致し願向茂多分御聴届ニ相成至極宜都合之由当方モ兼而御拝借返上之限月ニ相成候得共都而手当も無之又新畑等御竿入之儀も一統迷惑之様申居候ニ付出訴致シ候得者早速御聴済ニ可相成如何相考へ候哉と及相談候処嘉之寸計申聞候ニ者大躰返上之手当を致シ置候処宇和島御支配下騒動ニ付而ハ都而手廻リ不申甚当惑致候ニ付村内之所粗承リ見候処難渋致シ居候者も数々有之且野村出訴之様子御境目古市村宇和島配下助一(すけ)参リ候ニ付相尋見候処至極宜都合之様相噺候ニ付当方ニおいても少し相談も致シ見度候ニ付相決シ候ハヽ奥組合拾ケ村江指出シ候廻状相認呉候哉相頼見候処手合候事なら認遣し候様申候由相咄申候右ニ付又々国三郎方へ罷越嘉之寸計と之相談ヲ相咄シ候処同人も同意仕候ニ付書状其方ニ而相認不申哉と申聞候処同人申候ニ者認候而も不相分候而ハ詮も無之事ニ付助一江相頼候方可然様申候ニ付然れハ嘉之寸計と相談致シ宜敷斗呉候ハヽ他村江相廻シ候事ハ此方ニ而致シ候と申置罷帰申候同廿七日嘉之寸計国三郎両人ニ而古市村江罷越候途中助一(すけ)江出逢委細相頼置候趣ニ而同廿八日嘉之寸計方へ罷越居候処助一(すけ)書状認参リ都合四本之内壱本ハ国三郎受取申候其節助一(すけ)申ニ昨日御頼之通米弐升わらし弐足大綱壱筋持参ニ而御在処駄場江出浮候様認有之且宇和島御藩下百姓も相談ニ参リ候様認置候段モ相咄申候夫より嘉之寸計宅ヲ取リ帰近処之者三四人呼寄宇和島御支配下百姓より手合之状到来之様相偽リ隣村上鍵山村江為相送申候然る処其夜上鍵山村喜代太郎と申者国三郎方へ罷越相咄シ候儀者今日御役人様御入込ニ相成被仰聞候ニ者近村内騒々敷風聞モ有之決而出訴等致シ候様之儀ハ有之間敷候得共若当節之事故願向茂有之候得者何成とも取次遣シ候ニ付動揺不致候様御沙汰ニ付頼者指出候共出訴ハ相止候様触廻リ候由承候得共元来宇和島百姓より誘引之向ニシテ廻状指出シ候儀ニ御座候得者如何可相成哉と只其儘ニ仕居候処同廿九日同村並上鍵山村ヲ首として御在処駄場江相集リ夫より八ケ村ヲ誘引出シ候儀ニ御座候私ハ前申上候通病身ニモ有之且偽之廻状等指出シ候得者途中ニ而相顕れ候而も悪敷と相考へ御在処駄場江ハ出浮不申悴正次郎指遣シ申候四月朔日上

鍵山村より同村庄吉罷帰リ申聞候ニ者御在処駄場より上鍵山村江下リ候処今朝ニ至り候而も魁首ニ相成候もの無之ニ付相談之題ヲ出シ候者も無之只寄合居候斗ニ而趣意も不相分候ニ付此間相廻リ候状を元々江戻シ見候得者是非魁首ハ出可申と上鍵山村之者より詰引致シ候ニ付此間の廻状者其方手元より指出シ候事故考も有之と申候ニ付私申聞候ニ者其元之無之と申訳ハ無之候得共貴様も承知之通病気の事故跡より参リ訳立ハ致シ候ニ付夫迄ハ諸事引受程々ニ取計置呉候様相頼申候扨其跡ニ而嘉之寸計国三郎も私宅江罷越三人打寄当惑之咄シ仕居候同日末庄吉モ彼方へ出浮不申内上鎧山村ヲ一統立出候様承リ候ニ付最早状元穿鑿モ有之間敷と相悦居申候然ル処同二日ニも御座候哉悴正次郎小倉村庄屋処乱暴ニ恐怖致シ村内之者連帰リ呉候ニ付同日国三郎同道ニ而出懸夜ニ入出目村江罷越候処同処庄屋所を及乱暴一統庄屋所へ罷在候ニ付同村之者相尋候処上段之間江入込酒ヲ飲居候様承リ候ニ付其所江上リ子細相承リ候内不宜儀之事御坐候歟ニ而一同騒き立同処を出清延村駄場江押出シ野宿仕候翌三日朝川筋組合之者より乱暴ニ出浮候哉嘆願等有之誘引出シ候哉相尋候処組合拾ケ村之者ニ而返答仕候者も無御座候ニ付川筋之者ハ相分れ別ニ屯仕候様相成申候然ル処江追々御役人様モ多分御出張相成御説諭之上願向有之候得者指出シ候様度々御沙汰も御座候其節私ハ持病指起リ近永村組頭之部屋ヲ借リ養生罷越申候其跡ニ而延川村卯吉杯魁首指出シ候様庄吉江相迫リ候由同人より相咄シ候ニ付何れ元宗村迄出浮候ハヽ相頭シ候ニ付先夫迄ハ引受取斗呉候様相頼其場ニ而モ私ハ不顕して相済申候同日夕川筋組合之者ハ帰村致シ候由庄吉罷越申聞候ニ者三間組合之者ハ未相残居少々ツヽハ出浮候者モ有之候ニ付何卒宮野下村迄今夜出浮候而者如何と申候ニ付左様相成候ハヽ至極都合も宜と申聞候右ニ付同四日未明ニ同処ヲ出立仕宮野下村迄一統屯集仕候私儀ハ同日昼頃同処ヲ出立仕元宗村百姓源太郎と申者方へ宿ヲ借リ三四日同処ニテ逗留罷在候処庄吉罷越鍵山村喜代太郎私ニ逢度様申居候向相咄候ニ付兼而私モ彼者へ面会仕諸事相談も仕度折柄ニ候得者早速申遣シ候処同六日喜代太郎参リ呉候ニ付其節兼而宇和島御支配下嘆願ヲ粗承リ居候ニ付右等之廉当方ニ而も相願候歟之相談仕其余者後刻宮野下村江出浮候ニ付其節相談可致旨相咄シ同人ハ罷帰申候同日八ツ時頃宮野下村材木屋弥寸計方村宿ニ付同処江罷越夫より同村嘉之寸計国三郎庄吉延川村卯吉川上村弥惣治日々出会之上相談仕御支配地中も追々相揃候ニ付同九日同町三島宮ニおいて御出張御役人様江嘆願書指出シ申候処御受取ニ相成同十一日御裁許被仰付候処彼是不足申立当年之御年貢御引拾不被成下候ハヽ引払不申杯ト申者も御座候様庄吉より承リ且又同人申聞候ニ者右様御裁許も有之候得者未魁首と相成候者無之然而者川筋組合以下御支配地中ハ奥拾ケ村江詰置候由奥八ケ村之者ハ上鍵山村高野子村江詰置両村を野と致シ候様延川村卯吉川上村弥惣治申立候ニ付脇村之処承リ見候処矢張同様申居候如何取計

候哉と相尋候ニ付最早今夜之事ニ者不相成明朝之事ニ致シ候段申聞置翌十二日朝嘉之寸計同道仕上鍵山宿江罷越候処卯吉弥惣治両人も参リ居候ニ付色々挨拶仕見候得共右両人之者何分承知不仕且廻状指出シ候儀ニ御座候得者致シ方モ無御座高野子村ニ而ハ私魁首と罷成上鍵山村ニ而者喜代太郎と相究リ申候併右様相顕シ候上者精々被相包候迄者相包呉候筈ニ聢と約定仕候夫より三嶋宮社内江御支配地中村浦惣代之者相集リ其夜川上村弥惣治延川村卯吉より一統江若此後頭取御召捕相成候時者又此度之通出浮候様申合候由其節私ハ出会不仕候ニ付帰村後ニ承知仕候同日昼四ツ時宮野下村ヲ一統引払同夜五ツ時過帰村仕候

問

其方御恩借ヲ令忘却農業ヲ懈怠して自分困窮ヲ求メ嘉之寸計国三郎江及密談古市村助一江廻状為相認宇和島御支配下百姓より到来と偽リ指出候より愚昧之百姓共其機ニ乗シ飛道具等ヲ携出或者大縄ヲ製造し漸々強勢ヲ以空炮ヲ発シ剰小倉出目両村庄屋所ヲ及乱暴加之小倉村ニおいてハ出張之御役人ヲ打擲致シ其節其方ハ立逢不申候得共右様兇暴ニ押移候者皆指出シ候廻状より相発候事ニして其罪其方ニ帰申外無之候且又清延村駄場ニ而御役人数多出張上願向指出候様説諭有之候節病気ヲ唱へ近永村江潜居シ一統同所ヲ立宮野下村江屯集之跡ヲ慕又隣村元宗迄出此処江猶潜居シ廻状御支配地中江相巡リ追々村浦出揃候日ヲ待テ宮野下村江出浮衆民ノ力ヲ借リ不筋之嘆願及強訴重き天下之御大禁ヲ犯シ候段重々不届至極候依之如何様之御裁許被仰付候共寸分申分有之間敷候

答

被仰聞候通御大禁ヲ犯シ嘉之寸計国三郎申合容易儀ヲ相企御支配地中ヲ払腾為仕小倉出目両村庄屋宅ヲ及乱暴御役人ヲ打擲仕候儀皆私共悪業より相発リ候事ニ御座候而今更後悔仕一言之申訳も無御座此上者如何躰之御裁許被仰付候共聊御恨申上候義無御座重々奉恐入候

藤　吾

高野子村百姓国三郎吟味口書

吉　田　藩
高野子村百姓
国　三　郎
午三十八歳

問

其方此度徒党ヲ企鉄砲鍬鎌等ヲ持参為致道々炮発致シ諸村ヲ為驚怖強勢ヲ以誘引出シ小倉村出目村両庄屋処ヲ及乱妨出張御役人之命ヲモ敢不聞入却而令打擲宮野下村江押出シ数日逗留之上御支配地中ヲ呼寄不筋之嘆願差出候ニ付夫々加談之者共御召捕相成吟味之上委細相顕候ニ付此上ハ不包初発より之次第有躰之処可申出候若相陳候義有之ニ於テハ厳敷拷問可申

付候

答

仰之通当三月廿二三日の比藤吾罷越申ニハ今日庄屋宅江被召呼候ニ付罷出候処近村騒々敷風聞も有之村ニ而事ヲ発シ候者モ有之候ニ相聞へ候其方抔者不審敷と被申聞私儀決而右様之儀者不仕近村指而騒々敷儀も不承候よし虚咄致置候如何にも庄屋之御咄シ気ニ入不申候得者事ヲ発してやろふかと申候書状ヲ廻ス様ニ致スト藤吾申聞候ニ付私返答ニいつれ書状ヲ廻シ候得者村々ニ而も出浮候様相成候事者間違茂無之と申聞候三月廿四日藤吾江途中ニ而出逢候処藤吾申ニハ紙漉元銀十五貫目拝借致シ居候返上手当無之候ニ付当惑致シ居候右ニ付近村寄合相談致シ候而者如何哉左候得者廻状認呉間敷哉之旨申懸候得共私認候□者相分リ兼候段申聞受合不申候右ニ付私儀も藍元銀拾四貫目紙漉元銀十貫目都合弐拾四貫目拝借仕居返納手当無之実ニ当惑之折柄藤吾より右之咄シ合御座候ニ付其意ニ泥ミ申候然ル処藤吾罷越申ニ廻状之儀宇和島御配下古市村助市と申者江相願候様嘉之寸計相談致シ置候ニ付其方嘉之寸計同道頼ニ罷越呉候様申聞候ニ付承諾仕翌廿七日嘉之寸計同道ニ而古市村助市江罷越候途中辻堂有之此処ニ而休息致候処折柄助市見懸候ニ付辻堂江呼上ケ嘉之寸計申ニハ兼而相咄シ居候廻状認貫ひ申間敷哉と相頼候処承諾致シ候ニ付明後廿九日四ツ時御在所駄場江相揃米弐升ニ草鞋二足並大縄一筋と認呉候様私より相頼申候尤嘉之寸計者往還端之事故住来之人ヲ見合居申候鉄炮鎌鍬等数々持参致シ居候者も有之候得共右廻状ニ書入呉候様ニ者相頼不申候米三と申者江出逢承候ニ者壱番頭取者吉野村と有之二番頭取者上鍵山村豊治之よシ相咄シ申候翌廿八日嘉之寸計方江罷越候処藤吾助市も参り居疇昔相頼候廻状も助市認持参致シ呉申候私儀昨日米三江出逢承リ候儀三人之前ニ而相咄シ候処嘉之寸計申ニ左候得者魁首も有之事故廻状差出シ候儀見合ニ致候而者如何哉と申候ニ付夫なれハ先見合ニ可致旨申居候得共廻状も助市認参リ呉候儀ニ付三通者藤吾受取壱通者私受取申候私受取候一通者所方江既廻候廻状ニ御座候帰リ懸相考候ニケ様之企致候而者都ル処其身ニ懸リ可申と恐敷罷成直ニ私宅江可罷帰と伝三と申者方前江帰リ懸候処沢吉と申者呼込美寸計源寸計庄吉藤吾も参り居候藤吾手許へ宇和島御配下百姓共より書状到来之よし直ニ夫々可差出向之評定ニ相成候上鍵山村方江之書状者沢吉無拠受合取帰申候跡ニ而承候得者右状者沢吉取帰候得共鹿太郎と申者江相渡鹿太郎儀上鍵山村源寸計方江持参候よシ右書状者宇和島御配下百姓共より到来ニ者無之全古市村助市江相頼認呉候書状ニ而御座候翌廿九日私儀用事有之四五里も相隔リ居候処江罷越翌晦日罷帰リ候処所内者申ニ不及近村迄も上鍵山村大神駄場江屯集仕居候ニ付私儀も登山仕候其内追々里江下リ候様相成蠟屋酒店ニ而故障乱妨体も有之翌朔日前文廻状出先穿鑿ニ相成嘉之寸計藤吾江及面談度依而所方江罷帰り藤吾嘉之寸計江逢対之上一統出浮候場処江藤吾同道ニ而可罷越致約定

翌二日藤吾私両人同道ニ而出目村江一統罷在候ニ付立越申候当所庄屋処乱妨等之儀者罷越候後承リ申候夜ニ入当所致出立清延村広場江致野宿翌三日清延駄場ニ而口論出来右者川筋組之者より乱妨等致し候者江者得付参リ不申上江願之筋者此方ニ強而無之抔と面倒筋相発シ右ニ付延川村卯吉と申者より願之筋者頭取ニ者有之候得者其者より世話致シ可申と状元並魁首詮儀ニ相成候ニ付庄吉と申者より宮野下村迄出浮呉候得者可願筋且魁首モ相分べく何様彼方迄出浮候様申聞候得共一旦帰村致候村々も御座候よし然ル処藤吾之儀病気ニ付近辺之隠居家江養生罷在私儀モ少々不快ニ付藤吾居候処江罷越居候処夜半頃庄吉罷越一統宮野下村へ出浮候様相成候段申聞翌四日九ツ時比藤吾同道ニ而元宗村中宿江罷越夕方藤吾儀者中宿江残シ置私儀者宮野下町成木屋と申内村宿ニ罷越候処嘉之寸計も罷越居候尤嘉之寸計儀者清延村駄場より呼ニ差戻シ候由翌々六日朝籏寄と申三島宮江一統寄合仕候其節延川村卯吉川上村弥惣治専世話致シ嘆願之儀書綴一統ニモ承知仕候儀ニ御座候同十一日嘆願之次第御所置有之向ニ付三島宮江罷越御達之趣夫々承知仕候御達之書者私取帰リ一統之処ニ而宿之亭主江為読聞呉候様相願候得共得読不申向ニ付近所之医者江相頼読聞し貰ひ申候夫より一統引払ひ候向に相成候処魁首ニ相成候者不相分候而者難引取様延川村卯吉川上村弥惣治等申立面倒相成都リ藤吾上鍵山村喜代太郎両人片荷ツツも魁首ニ相極リ藤吾証拠人者嘉之寸計庄吉喜代太郎証拠人者徳松兼吉と申者相立一統弥引取候向ニ相成候然ル処又三島宮江寄合若魁首御召捕相成候時者一統出浮御断可申上と致相談候よし私儀者此寄合ニ者出会不仕候翌十二日晝時頃宮野下村引払一統夜ニ入帰村仕候帰リ懸宇和島御配下清水村御旅処ニ而十ケ村一同ニ相成若魁首御召捕相成候時者弁当等も間ニ合不申候ニ付急ニ出浮候様又庄屋江立入不申農役も不致様示し合有之候よし翌日承知仕候五月廿二日田植手伝ニ罷越居候処御役人体之御方両三人御通リ被成候ニ付如何哉と気遣敷存居候所藤吾参リ懸リ候而申ニハ先刻も両三人御役人様御通行ニ相成候決而此方共も御召捕ニ可相成若左様も相成候時者有様ニ致白状可申様申聞候夫より藤吾儀者上鍵山村喜代太郎方江罷越候趣ニ而相別れ申候前頭之通御役人躰之御人御通行追々魁首御召捕之風聞も有之候ニ付恐敷罷成家内之者江扨拙者モ悪敷企致シ候ニ付而者決而近日之内御召捕可相成ニ付暫時出抜御神参リニ而も致シ可申先土州之龍王宮江参詣致し夫より大洲方へ立越順々金昆羅江も参詣可致旨申聞置五月廿三日早朝宿許立出土州江出浮其夜土州品川と申処江一宿翌廿四日龍王宮江参詣仕翌廿五日大洲北平村と申処ニ従弟御坐候ニ付其方ヲ便リ罷越同廿八日迄逗留仕候此処ニ而悪敷企発し御召捕之間ヲ逃居候段お咄し候処相驚キ決而逃得る事者出来不申却而罪ヲ重ク致し候様のものと意見仕候ニ付長逗留も難致無拠立出夫より新谷金昆羅江参詣仕大洲中村と申処江叔母御座候ニ付立越二宿逗留仕此方ニ而も北平村ニ而御咄シ候通申聞候処是又相驚キ早

々罷帰リ候様申ニ付其心得罷在候処同廿九日五人組合並家内之者より相尋罷越家内相咄し候ニ者去廿五日御上御役人様御入込相成御用之趣ニ候処不居合候旨申上候処家内者庄屋所江御呼出しニ相成御役人様より国三郎儀何地江立越候哉致承知居可申と厳敷御尋被成行先ニ而も不申出様ならハ親子共吉田表江御引出し可相成向ニ付四五日中ニハ是非捜出し候ニ付夫迄之処御詫申上候処御聞届被成下候ニ付直様組合同道ニ而尋ニ罷越候段申聞候ニ付翌晦日大洲中村出立いつれも一所ニ罷帰候之処六月朔日当方江御引出し相成直ニ入牢被仰付候

問

其方天下之御大禁ヲ犯シ藤吾嘉之寸計申合不容易企致シ小倉村出目村庄屋所及乱妨剰御役人ヲ令打擲其節其方者其場ニ不居合向ニ者候得共抑事ヲ目論見候より右体之次第ニ押移且配下不残百姓共為致沸騰御召捕之節神参リ抔と唱へ候て他出重々不届至極之事ニ候右重罪ニ依而如何躰之裁許申付候共申訳有之間敷候

答

仰之通御大禁ヲ犯シ藤吾嘉之寸計申合不容易企ニ及ヒ所々乱暴御役人ヲ致打擲候様押移且御藩下不残百姓とも為致沸騰候儀者全私共之所為ニ而御召捕之節出浮罷在重々恐入今更後悔仕候依之如何様之御裁許方仰付候共御恨ミ申様之儀聊以無御座重々奉恐入候

国　三　郎

高野子村百姓庄吉吟味口書

吉　田　藩

高野子村　百姓

庄　吉

午三十八歳

問

当三月下旬山奥十ケ村農民沸騰所々ニ而令暴業衆威を以諸村ヲ誘引シ終ニ宮野下村迄出訴末出浮村々に多人数迎指向不出浮者及暴業之躰を以誘引シ同所屯集中諸事先立屢令嘆訴候次第明白之処可申候

答

当三月廿八日私義同村武平方江普請手伝参候処同村藤吾参同所伝造と申者方江参呉候様申越候ニ付早速参り候所同人相咄候ニ者宇和島御藩下より如此書状参脇村江も継呉候様申越決而出訴致候様申参候儀と存じ如何可致哉と相談仕候ニ付私申候儀者先頃も右様之咄御座候処右状相隠不指出者も有之歟ニ申一統立服仕候義も有之ニ付而ハ今亦此状指留不指出時者彼是立腹致候様可相成候間何様指出候方可然と相答候処同人カ上鍵山村江為持候様子ニ御座候然ル所同夜上鍵山村喜代太郎と申者所方江参相咄候義ハ仝日彼村江御役人様御入込相成彼仰聞候義ハ山奥組合十ケ村者出訴致様与如何敷風聞有之右様

之儀者致問敷候得共万一頗向も有之候得者何成共指出可申旨
被仰聞候間出訴者延引致シ嘆願有之候得者指出可申旨申参候
趣承候ニ付決而出訴ハ延引相成候与相心得翌廿九日又候武平
方江手伝参候処同村沢吉何歟用向御座候而上鍵山村江参リ候
所同村百姓中ハ今暁御在所駄場江上リ候由相咄候ニ付如何哉
と相考居候処追々呼使等も参リ候趣ニ而所方百姓共追々右之
場所江参候付私義も参候処右御在所駄場江者壱人も居合不申
鳥ケ森江参見候所上鍵山村川上村両村百姓申参追々当村続而
延川村抔も参候付延引之村々江者呼使も指遣候由ニ御座候右
ニ付追々外村も参相談之上打藁ヲ取寄大縄ヲ拵其夜者同所ニ
而野宿仕翌晦日於同所小松二本引かヘシ縄ノ強ヲ試同夜上鍵
山村三谷屋江参リ私義者同所ニ而止宿仕候其節相談之上相定
候次第左之通

一　村境ニ而鉄炮三発先方より炮発致候得者直ニ出訴致候村
　与心得可申事若亦先方ニ而炮発不致時者出訴不致村故敵敷
　乱発致候事

一　鉄炮三発貝ヲ吹候時者無事之時之事

一　御役人様与見掛並ニ不審之儀有之時ハ敵敷乱炮之事

一　見斗之時者留可申事

一　惣而紙玉之事

右之通決談之上同夜相休翌四月朔日延川村卯吉始上鍵山村兼
吉長吾私江相咄候候ニ者右様寄合今日ニ而三日相成候得共末
魁首も無之且亦願之筋も不相分此度屯集致候様書状指出候村
ハ高野子村ニ而同村鹿三郎上鍵山村江持参候ニ付状元並魁首
者高野子村ニ無之而者不相成と申候付私申候儀者右魁首状之
元ハ高野子村ニ有之とハ承知不致候得共上鍵山村喜代太郎出
訴延引致候様申候ニ付止リ居候所上鍵山村より御在所駄場江
上リ呼使等相指越候付高野子村ハ参リ候事故右魁首ハ上鍵山
村ニ無之而ハ不相成訳ニ者無之哉と詰引仕候所抑上鍵山村御
在所駄場江上リ候様相成候儀も高野子村より書状参候故之儀
と相咄候ニ付然者罷帰穿鑿致参候様申罷帰沢吉江相尋候所同
人申候儀者我者藤吾か受取鹿三郎江相渡同人上鍵山村江持参
候段相咄候ニ付藤吾方江参リ相尋候所委細相含申否嘉之寸計
方江参候ニ付私儀ハ帰宅仕掛途中吉造宅ニ而国三郎江出合候
ニ付同人江モ右之咄仕置帰宅仕候所無間も藤吾国三郎両人参
相咄候儀者右状之出先ハ慥ニ有之候ニ付気遣ニハ不及且亦承
リ候得者御百姓中モ先江出掛候趣ニ付我ともニ両人跡より参
候間何様貫様ハ早々参リ何事モ取斗呉候様相頼候ニ付私義ハ
決而此度之儀者渠等工ミより発候義与存候ニ付早速承知仕其
儘出掛参候所都而様子相分不申漸々小倉村取付之山ニ而跡勢
ニ追付如何之訳ニ而右様出掛候様相成候哉与相尋候所兼吉申
候義者延川村卯吉是程之事ヲ発候位ならハ魁首も状元も無之
訳ハ有之間敷故村印之籏ハ入交にして出掛候様発言致候ニ付
参掛候段相咄夫より小倉村江参候所御庄屋江者御役人様御入
込相成候段承リ然ル所御内沙汰も有之百姓中江も夫々宿ヲ御
渡被下候ニ付右宿江参リ居候所両三人寄合評定仕候義者右宿

御渡被下置候義者難有奉存候へ共右御役人様御込入相成百姓共宿々江入置壱度ニ御召捕被成候思召之程モ難斗抑所方ヲ出仕候節より野宿之心得ニ而居候事故川原江参候歟又ハ御庄屋之広庭江参候歟両様之所江参候而者如何哉与評定中何様此所江居泊若如何之儀も有之候得者相図鉄炮ヲ発可申右発炮致候場所江早速掛付可申と決定之上何れも相別居候所無間も寺ニ而発炮仕候付否一統駈付参候所寺ニ者誰も居合不申然ル所何も庄屋所江参居候付又々同所江参候所御役人様出掛被成候ニ付明松ヲ以テ打申候夫より杖ヲ以テ御庄屋所様ヲ打且亦庄屋所ヲ巻倒候付縄拵致候様指図仕候所両三人立寄取拵居候得者右者其盗ニ仕同村百姓共都而出訴不仕候付而者一統立腹仕候所百姓中出訴候間乱暴ハ止リ呉候様挨拶御座候ニ付右乱暴指扣居候所又々御役人様拾人斗御出被成候ニ付私相考候者定而御弁舌ヲ以テ被諭付候儀モ可有御座与存候間狸が参り候ニ付鉄炮竹槍ヲ構候様暴言ヲ吐候義者何共奉恐入候其後所方飯焚之場江参リ喰事仕居候所又々発炮仕候ニ付如何哉与存居候所誰歟参相咄候義者吉野村蕨生村之者御召捕相成出目村収蔵江入有之ニ付取戻スト申出掛候由承り候ニ付十分ニ喰事仕弁当拵江仕後より出掛出目村参見候所同所庄屋居宅乱妨仕候躰ニ而高野子村百姓者何れ江居候哉と相尋見候所右御庄屋之上屋敷ニ居候ニ付同所江参承リ候所御庄屋所より鉄炮ヲ打掛候付右様乱暴致候段承右ニ付庄屋ヲ出候歟又者鉄炮ヲ出シ候哉与相尋候処同所組合四ヶ村之挨拶ニ相成相済候儀ニ御座候然ル所右四ヶ村より酒振舞度段申参候ニ付一統馳走相成候所江藤吾国三郎両人参候付右之次第相咄候所同所下男牛馬ヲ引出シ候ニ付一統不審存若御召捕相成候義ニ者有之間敷哉与一統立出清延村駄場江参同所ニ而野宿仕翌三日川筋組合十ヶ村ヨリ申越候義者山奥百姓中ハ乱暴ニ出候歟又者願之筋モ有之出訴致候歟嘆願之儀有之候得者為聞呉候様申越実者願出候義モ無御座候付而ハ誰モ返答仕候者モ無之ニ付川筋百姓中大ニ立腹仕候義者嘆願モ無之ニ焼払抔与申川筋百姓中呼出し乱暴ニ参候儀ニ候得者同道者得致不申趣ニ而川筋百姓中ハ山手江引離申候付延川村卯吉申候儀者川筋ニ而ハ頭取成候者無之魁首ヲ指出候様申越候段相咄候付右之次第藤吾江相咄候所当人申候義者随分魁首モ不指出訳ニ者無之候得共今指出候而者指支候儀も有之候ニ付何れ元宗村辺迄参リ候へ者其節指出候間程能取斗呉候様相頼候付右卯吉江私より相咄候義ハ魁首者有之候ニ付指出候得共今ハ病気ニ而難指出ニ付元宗村近辺迄参候得者無間違指出候段相咄候所同人申候儀ニハ右之所迄参候共若魁首出不申時ハ如何致候哉与相咄候所其節ハ我魁首ニ相成候段相咄候所上鍵山村喜代太郎之申候ニ者我モ魁首相成候段相咄候ニ付然者其旨川筋江相咄候段申喜代太郎卯吉両人ハ川筋組合其場江参候折柄御役人様御出被成組頭江被仰聞候義者願之筋モ有之候得者此所ニ而可申出何れ迄参候共同様之儀与被仰聞候得共誰壱人も願出候者モ無之右ニ付御自分御出被成被仰聞候儀者願筋有之候得者早々指出折農之時節故一刻も早く

帰村可致旨被仰聞候得共実以未嘆願可仕と存居候ケ条モ無御座候ニ付何れ元宗村辺迄参候得共一統評定之上嘆願仕候義与奉存候事故誰壱人モ願出候者モ無御座候然る所川筋江ハ卯吉喜代太郎両人参候得共何分承知不仕同所より引取申候付村印之籏ヲ寄村々より勘弁有之候者共相集相咄候義者先刻相咄候魁首之儀者先方江参候得共弥以指出哉与相尋候付私申候義ハ右先方江参候得者弥以魁首指出候様申聞候所其儘引払折柄雨も降出し候ニ付而者御役人様御指図に御座候而宿ヲ御渡被下候得共若御召捕ニモ相成候歟と存右宿江ハ得参不申矢張同所ニ而野宿仕候所同四日未明益雨も降出シ候付私相咄候義ハ元宗村辺迄出掛ケ候而者如何哉与及相談候所一統同意仕候而同所ヲ出立仕元宗村江出掛候所自然与宮野下村江参候様相成同所江参候所両三人世話致貰候人モ御座候而同町に逗留仕候義ニ御座候ニ右ニ付村々惣代寄集相談仕候得共何分嘆願決定仕不申然る所村々ニ而嘆願ヲ拵書付ニシテ山奥分江指出呉候得者右之内宜ケ条ヲ取嘆願指出シ候様之相談モ仕候得共何分決談ニモ不相成無拠高野子村藤吾嘉之寸計国三郎私延川村卯吉川上村弥惣治上鍵山村喜代太郎右七人相談之上ケ条取揃嘆願之儀者専藤吾喜代太郎両人ニ而引受同九日同所三島宮社内江御役人様御出張被成於同所指出シ同十一日指向御所置被仰渡候所村々より相咄候義者最早右様被仰渡モ有之候ニ付而ハ帰村不致候而者不相成候得共末為魁首者無之候ニ付而者早速引取与申分にも不相成弥魁首不指出候ニ付而者山奥組合江押寄候様と相咄候趣も御座候ニ付右之次第藤吾江相咄候所何等与取斗見呉様申候付色々取計見候得共是非不指出候而者不相済候間同十二日朝藤吾同道ニ而又一統寄合候所江参藤吾並ニ喜代太郎両人魁首与相成候所一統落意仕候付同日引取候儀ニ御座候

問

汝当三月主謀藤吾ニ組シ悪計ヲ巡ラシ村々農民ヲ誘引小倉村庄屋居宅ヲ乱暴シ剰出張之役人江不容易及暴業統而出目村江屯集致シ其後清延村駄場江及屯集候所於同所川筋組合十ケ村より嘆願之儀相尋候得共一言之返答モ出来不申右ニ付川筋組合同所より帰村致候得共山奥十ケ村者汝等悪計ヲ巡シ候付帰村も不致右ニ付役人ヲ以難及説諭敢而不用益悪計ヲ巡シ出先迄参魁首不出時者汝魁首ニ相成候段一統江被申聞候ニ付而者強気ニ付猶亦汝発言ニ而同所ヲ出立シテ宮野下村江屯集於同所数日逗留中時々寄合難衆評尽元来非道之儀故誰有而申出候者モ無之右ニ付数日ヲ経漸嘆願難指出右躰之儀ニ候得者強而出訴不致共可然所強勢ヲ以徒党ヲ企且乱暴相働候儀者重キ天下之犯御大禁候大罪如何心得居候哉依之如何躰之御裁許被仰付候共申分無之哉

答

被仰聞候通重々奉恐入候此上ハ如何躰之御裁許被仰付候共聊申分無御座重々奉恐入候

庄　吉

延川村百姓卯吉吟味口書

吉田藩
延川村百姓
卯吉
午四十歳

問

当三月下旬山奥拾ケ村農民沸騰所々ニ而令暴業衆威ヲ以諸村ヲ誘引シ終ニ宮野下村迄出訴未出浮村々江多人数迎ヲ指向不出浮者及暴業之躰ヲ以令誘引同所屯集中諸事先立屢令嘆訴候次第明白可申出候

答

私儀当三月廿八日之夜同村吉之丈方婚姻ニ付罷越翌朝未大酔ニ而罷在候所奥分ヨリ軒別送リニテ廻状至来尚又言次ニ示談之義モ有之ニ付弁当並米弐升且鉄砲所持之者ハ持参之上明廿九日昼四ツ時嘉喜山村五在所駄場江相揃候旨申越候得共彼是猶予之内奥分より村押ニシテ出村不致ハ居宅江放火シテ焼払且ハ巻崩ス抔ト噂ニ付不得止村内モ一時ニ出浮相揃候様押移候義者宇和島藩下農民沸騰野村江出訴之砌出村不致村之者乱暴被致候而兼而承知之上恐怖之折柄前条之次第ニ付一時ニ出揃候義と奉存候然ル所出村之砌御役人様御出張之上被仰聞候義者居宅焼払等者不為致様ニハ取計候間必不出浮様再三御沙汰ニ候得共其時末酔モ不相醒酒狂ニ乗シ居宅ヲ被焼候ヨリ出村可然と一統之者江申聞且鉄炮鍬柄等ヲ持参候義者私之発言より之事ニ而恐入候次第ニ御座候従夫狼駄場ニ而炮声相聞候付五在所駄場江不相登内彼方江相登リ申候然る所多人数寄集候得共都而相談之次第モ相分リ不申翌晦日高野子村より大縄ヲ綯立候様申参藁ヲ取寄村内ニ而八房斗リ為綯立申候右之縄ハ先々出村不致村々又ハ高利ヲ貧商人ともを巻崩ス為ニ造立候義ニ御坐候従夫同夕上嘉喜山村商人ニ谷屋麗八郎店先を相下リ其夜ハ同所江相泊申候翌四月朔日村々籏印ヲ拵候様申事ニ而右印ヲ拵申候扨右籏縄等者相整候得共都而願之次第且魁首之者相分リ不申候ニ付何故ニ出浮候様申越候哉と一統面倒申立候ニ付何様次第之相分リ候迄ハ麁忽ニ出浮不申向ニ一統相談仕居候然ル所五在所駄場江相揃候様廻状ヲ指出村ハ高野子村ニ有之趣ニ付触元之処取調候得共魁首並願之筋モ相分リ可申様発言之者モ御坐候間高野村庄吉と申者江右之次第相尋候所庄吉申候ニ随分魁首願之筋茂相分リ可申候間一先罷帰候上状元詮議致候而可罷越旨夫迄ハ待呉候様申置帰村仕候跡ニ而私一統江申聞候ニ者庄吉右様取調罷帰リ候上ハ定而願之筋モ相分リ可申候間先可参処まて出浮候而者如何哉其内状元故ニ同村之籏ヲ先江立候与申義者甚難義之様申候間籏之前後者不申立共皆々入交ニシテ可参筈ニ相成申候扨相図之義ハ御役人様と見請候ヘハ皆々鉄炮乱発且飯時ハ一発と相定従夫一統出浮申候義ニ御坐候是以人並より先立出浮候様一統江指図仕

候義ハ魁首ニ等敷仕業ニ御座候而重々恐入罷在申候従夫漸々出浮小倉村境江参り相図之炮発致候所同村之者壱人挨拶として罷越候所追々夜ニ入候間今夜者当村江一宿被致候而ハ如何哉末村内之者共ハ支度相調不申候間一宿致呉候得者其内ニ者支度相調候間同道可致向申候間一統同処江相泊り候向ニ相談相決シ夫より延川村者同所酒家江止宿仕候之処高野子村宿より申越候義ハ当村江ハ御役人様御出張ニ者相成不申心得之所御多人数庄屋宅江御入込ニ相成居候様子ニ御坐候間自然此所ニ而御召捕ニ相成候程モ難斗候間相図次第庄屋宅江押寄候而ハ如何哉と相談申越候ニ付可然旨返答仕指返申候処無程相図之炮発相聞候ニ付一統御庄屋宅江押寄申候所最早乱暴相始リ居候ニ付私義モ塀之瓦ヲ抜取座敷江投込居候処兼而拵居候大縄ニ而巻崩シ候抔と申者も御坐候間私も其意ニ相成右大縄を繋合(鎮カ)居候所小松延川両村御庄屋御出被成而御取慎(鎮カ)ニ付漸々相慎リ申候然ル所吉野村蕨生村之者共両三人御召捕ニ相成出目村納蔵江御指置相成明早朝吉田表江御引出し相成候由ニ付夫迄ニ皆々彼村迄押寄被召捕居候者共取出し呉候様頼参候ニ付夫より一統同村江出浮候時分ハ二日之暁ニ御座候夫より納蔵を相改候得共右囚人者居不申候ニ付否庄屋宅江参り乱暴相始申候処荒々敷障子雨戸板塀抔ヲ打破リ或者柱ヲ切リ候者も御坐候私ハ鍬之柄ヲ以テ板塀ヲ打破リ夫より宅江入込見合候所家内之者一人も相見へ不申候ニ付夫より部屋へ相廻リ候所隠居而已罷被居候ニ付御庄屋ヲ相尋候所何レへ参リ候歟承知不致向被申候間此度被召捕相成候者共当処江隠し置有之候由依而及乱暴候何様囚人之者隠し有之処教呉候様荒々敷相尋候得とも隠居之義ニ而都而承知不致向相答申候夫より一統も所合承候処御召捕之者ハ吉田表江御引出し相成候義ハ相違無之様承知仕候間然ハ若者共ヲ弐三百人指遣シ右之者共連帰不申候半而ハ不相成と存付候間右之次第一統江相談仕候所相熟シ不申候ニ付其儘ニ差置申候彼是仕候内暮ニ及候間私共ハ同村百姓家江相泊居候処又々声ヲ立早々出浮候様申候間一統屯集之場江罷越候而承リ候得者出訴致候者之内御召捕ニ相成候者も有之候抔与申触候者も有之候間何様此処を立出候方可然様申候間三日未明同処を立出清延村馬場迄屯集仕候処川筋之者より申候ニ者皆々被出浮候義者願之筋有之候義ニ候哉又者乱暴ニ被出候哉未慥ニ願之筋も不相分如何之都合ニ候哉与尋参候得共誰も相答候者無御座候ニ付而者山奥之狸ニ付添出浮候事者不相成抔と申出候而口論ニも罷成是より山奥川筋引離申候ニ付川筋より右様申義も尤之儀と存夫より山奥拾ケ村銘々其村之印籏ヲ持村々ニ而頭立居候者共籏寄与相唱寄合申候ニ付私より高野子村庄吉江申候ニ者川筋より右様申候義茂尤之次第高野子村者触元之事ニ候間魁首願之筋ハ取調ニも被帰候事故定而慥而事も相分リ居可申故承度候と申候処同人返答ニ此義者此所ニ而者相顕しかたく候間何様高野子村迄出浮呉候ヘハ其所ニ而相顕シ候様申候然処嘉喜山村喜代太郎申候義者若又魁首願之筋モ不相分候節ハ此方魁首ニ相成候ニ付其旨承知

致呉候様申候依而山奥川筋与引離居候而者御願申上候義ニも指支候間何様一同ニ相成呉候様川筋方江挨拶ニ拙者も参リ候間同道致呉候様申候ニ付右屯集之場江参申候義ハ山奥分ハ願之筋も有之候間出村致候所川筋ニおゐても御願之筋有之候得ハ山奥同意ニ相成宮野下村迄出浮呉候義ハ不相成哉与相談仕候処川筋方ハ都而願度義無之候間山奥之同意ニハ得相成不申向に相答申候其内老体之者共申候ニハ篤ト勘弁之上是より返答為致向相答候間私共之屯場江引取居申候所御役人様御多人数御出張ニ相成願之筋有之候ヘハ此処ニ而指出可申候様度々御沙汰御座候へとも庄吉喜代太郎より兼而申候通宮野下村迄参リ不申候半而者願之次第魁首等も相分リ不申候事と存居候間何之御答も不申上罷在候所川筋方ハ御願申上候義茂無御座故山奥江者何之返答も不及御役人様之御指図ニ随ひ同日暮迄ニ不残帰村仕候無間も夜ニ入候ニ付山奥拾ケ村者同処江野宿仕居候処夜半之頃より大風雨ニ相成一統余程難渋仕居候処暁方ニ相成候而者弥増難渋様罷成候ニ付兼而圧吉喜代太郎より高野下村迄出浮呉候様申居候事故彼所迄参候ヘハ町近之義ニ付何程用弁ニも宜敷旁以四日暁方不揃彼方江出浮申候然ル所私儀者途中より弁当取ニ罷帰り翌五日同所江出浮申候所村々ニ而惣代之者も相極御願向相談之場江為指出候様相談有之候趣ニ付私江惣代ニ出呉候様村内一統より相頼候得とも惣代ニ相成義ハ後難モ可有之と存候而色々と推断候得共是非ニと申立候ニ付不得止惣代罷成申候然ル処御役人様より度々御沙汰御座候義ハ願之筋有之候得者社是迄出浮候義ニ可有之候間早々願書指出候様御達御坐候得者此廉ヲ以是非とも御嘆不申上候半而者百姓中立行不申与申ケ条も無御坐実ニ宇和島御支配地中出訴之上追々願向御聞届ニ相成廉も有之歟ニ承借願之有無も不相弁其機ニ乗シ出浮候義ニ御座候間此ケ条ヲ以直ニ仕候而御願申上候与申廉も無御座候間同処江出候而二日も相立候得共未何之次第モ相分リ不申候然ル所山奥中押而宮野下村迄出浮候ニ付而者三間内者勿論引取居候川筋迄も又候出浮申候然れ共浦手分ハ六日相成候而も未出浮不申候間五六百人指遣シ強勢を見せ掛ケ候ヘハ其威ニ恐怖して早速出浮候之様可相成与喜代太郎より発言致候ニ付八十治私至極宜敷与同意罷成其手配仕置候所翌七日ニ罷成候而者御支配地中大躰相揃申候間其儘ニ而指遣シ不申候然ル所此度出訴之根元ハ高野子村ニ御座候得共山奥中者一致ニ罷成出浮候故歟諸村浦々ニおゐてハ山奥拾ケ村を目的として樽肴等ヲ相送り諸事相縋参リ候間前後之思慮も不仕貰請居申候右ニ付願書之義者山奥中江依頼致し度向ニ御支配地中一円より相頼候ニ付無拠山奥中江引受申候得共山奥中之内ニ而も出訴之根元者高野子村嘉喜山村両村之事故右両村江相任し置申候処同八日嘆願ケ条尚又相談致度故寄合呉候よふ申参リ嘉喜山村宿へ相集相談仕御願申上候ケ条も出来仕候間明九日御受取被下置度段御伺申上候所同所三島宮於社内明正四ツ時御受取被下置候段御達ニ相成右ニ付翌九日一統三島宮江相揃居候所御役人様御出張被遊候ニ付

御願書指出候処御請取之上御読上ニ相成其後御達相成候義ハ願書受取候上者取調之上明後十一日裁許ニおよひ候間其旨一統相心得可罷在候且願書も受取候上者五人組之内壱人宛居残余者肝農之時合ニ候間不残帰村致農業出精相働候之段御達ニ相成御役場江御引取ニ相成申候右ニ付御達之趣一統相談仕候得共相決し不申候ニ付川上村八十治より申発義ハ何れ当年者半作之見込ニ候間一両日之違も無之候ニ付御願申上候次第御裁許奉伺候上ニ而引取候而者如何哉其迄者壱人茂引取不申様可致者申聞候間私茂同意ニ相成一統江右之次第相通シ申候処皆々可然向ニ相談相決申候間右ニ付御裁許被下置候迄ハ一統引払不申様御聞届被成下度段御嘆申上置候然ル所私義ハ数日之逗留ニ御坐候間宿元江無余義用事も御坐候間御願書指上置候ニ付明後十一日まてハ惣代之用向も無之事故明十日者罷帰リ度段相談仕候処尤之義ニ候間任其意候様申候ニ付翌十日帰村仕同十一日又々出浮候処兼而御達通リ御願申上候ヶ条夫々御裁許被下置候ニ付而者否一統為引払可申筈之処出訴仕候而より度々魁首与相成居候者ハ何某候哉与高野子村庄吉嘉喜山村喜代太郎江相尋候へとも宮野下村迄参リ候へハ相顕候間夫迄ハ待呉候様申候ニ付任其意置候得共今日ニ至リ候而も都而相分リ不申候間私八十治江相談仕候義者右魁首も相分リ不申此儘ニ而引払候而者此先魁首之御吟味有之節ハ衆人ニ先立諸事相談之発意もいたし居候間私共両人魁首之御目指ニ相成候程も難斗候間喜代太郎庄吉両人より兼而申居候義有之候間岐度相糺し魁首相顕し候上ニ而引払不申候半而者後難恐敷与申合右両人手許相調申候処此先自然魁首御調有之候とも其方ともへハ心配相掛ヶ不申様申候得共只口上にて左様之義ヲ申候而も難聞届候間是非共相顕し不申候へハ御支配地中之者高野子村嘉喜山村両村江押寄人家者壱軒も無之様野ニ到候趣喜代太郎庄吉両人江申聞候処不得止魁首者高野子村藤吉右証拠人ハ同村庄吉嘉之助嘉喜山村ニ而者喜代太郎右証拠人者兼吉徳松与相定候得共可相成者相包呉候様彼村より相頼候ニ付其義ハ両人ニ而引受承知致居候間安心可致向申聞置候夫より右様被相頼候ニ付而者御支配地中一統にも篤と示談之上為引払可申与八十治私申合夫々村々惣代之者を三島宮江呼寄一統江申聞候義ハ昨日御裁許被下置候ニ付而者最早今日者一統ニ引払候半而者不相成其内此後自然魁首之者御召捕ニ相成候節ハ御支配地中一統此度同様鍬鎌鉄炮持参候之上御召捕先江否出浮御召捕ニ相成居候ものとも取返し不申而者不相成此義ハ一統如何哉与申聞候所其儀者申迄も無之一統其心得罷在候様相答申候間左様之心得ニ候へ者是より一統相揃御役場江御届申上置否引払可申段申聞則一統引払候故御届申上置四月十二日晝九ツ過宮野下村ヲ一統引払銘々帰村仕候然ル所五月廿五日御召捕ニ相成翌廿六日御当方江御引出し之上入牢被仰付重々恐入罷在候義ニ御坐候

問

其方居村を出浮候節役手より申聞候次第茂不相用村内之者共

を引連狼駄場迄出浮同処ニ而縄抔を綯立候節も専村内之者共江致指図且三谷屋麗八郎店先より宮野下村迄及出訴候義も主謀ニ先立令指揮小倉村出目村両庄屋宅令乱暴清延村駄場におゐてハ川筋之者へ申聞候義ハ山奥同意ニ罷成是非とも宮野下村迄出浮呉候様相進メ加之宮野下江出浮中者殊更衆民ニ先立令強訴且五人組之内壱人宛居残リ余者引払候様相達候節其方八十治申合裁許済ニ相成候迄ハ壱人も引払不申候様一統之者江申聞候次第剰引取後も魁首之者召捕相成候節者又々一統出浮候様申聞候而己ならす自分之罪ヲ相隠し候為ニ藤吾喜代太郎ヲ魁首ニ相定候迄者多人数引留居候条々如何相心得居候哉右重罪によって至当之裁許申付候間申訳之筋も有之候ハヽ可申出候

答

被仰聞候条々一点之申上様も無御坐只今ニ至テハ重々後悔罷在候実以其節者衆人ノ力ヲ得不容易横業ヲ働御役人様より之御沙汰も不相用諸事衆民ニ先立奉御大禁犯何共申訳無御坐候此上者如何躰之御裁許被仰付候共少茂御恨不奉存重々恐入奉存候

卯　吉

川上村百姓弥惣治吟味口書

吉　田　藩

川上村百姓　隠居

弥　惣　治

当年六拾八歳

問

当三月下旬山奥十ケ村農民沸騰処々ニ而令暴業衆威ヲ以諸村ヲ誘引シ終ニ宮野下村迄出訴末出浮村々江多人数之迎ヲ指向不出浮者暴業之躰ヲ以テ令誘引同所ニ屯集諸事先立屢々令嘆願次第明白之処可申出候

答

私儀者伜伝九郎江家督相譲当時隠居之身分ニ御座候然る処当三月廿八日之夜致出村候様廻状到来仕候由猶又口上ニ而明廿九日正四ツ時五在所駄場江出浮候様伝言御座候翌廿九日隣家之者ヨリ米弐升草鞋弐足莫持参候様申次御座候然る処暫時シテ両三日ノ延引之節ニ相成候段通達有之候ニ付其向ニ相心得居候処午時頃ニ相成又々出浮候様申事ニテ若出村不致時者放火シテ家ヲ焼立ルト申事之由ニ付如何仕候哉ト存居候内御役人様御出張相成居候テ被仰候者譬焼立如何成行共出浮不申候得者償遣候ニ付是非ニ出村不成様ニと御沙汰被下候趣通達御座候而承知仕居候得共追々暮ニ至リ自然と当村も出懸候様相成候ニ付伜伝九郎支度相整出浮申候其後次第ニ村々誘引シテ出懸参候様承知仕居候四月三日清延村駄場江屯集之折柄悴義相煩之由ニテ同日夕罷帰ツテ相伏候ニ付皆之出村仕居候事故其儘ニ茂相成間敷と代リニ私出之心得ニ罷成候四日朝より私

儀出懸参候処何れ茂宮ノ下村江出居候由ニ付彼方江参同十二日迄逗留仕候処相談有之節者一ヶ村ヨリ惣代之者両三人宛同所三島宮社内江寄合候而示談仕候節ニ相成川上村ニ而者私儀惣代ニ而其時々出立仕候五日右同所江惣代之者共寄合之節鍵山村喜代太郎（此喜代太郎当五月召捕糺合ニ不及内牢死仕候事）より相嘶候者此度嘆願之儀者出訴根元之村ヨリ咄合可有之故承知致呉候様申候ニ付私申候ニ者願之儀ハ如何之ケ条哉と相尋候処答ニ三ツ物成歟四ツ物成歟ト申候ニ付三ツ物成ハ何々ニ候哉と相尋候処米胡麻大豆ヲ云フ四ツ物成ハ右ニ真綿ヲ加フルヲ云ト申候ニ付左候得者右三品四品之外者惣而小物成者相断候様御願申上候儀歟ト相尋候処勿論之事ト相答候扨其日ハ夫成リニテ下宿仕候六日之相談者御出張御役人様より度々御沙汰ニ諸村出訴ニ及候者嘆願之儀有之故出浮候儀ニ可有之故一時モ早ク願出可申旨被仰聞候得共未浦手之村々出浮不申ニ付不残出浮候半而者嘆願も不被指出依而五六百人浦手江廻シ強勢見せ懸ケ候得者恐怖シテ早速出浮候様可相成ニ付右様取計候而者如何哉ト喜代太郎申出シ延川村卯吉私も早速同意仕其手配仕居候七日八日之相談之節右手配通リニ可仕と申合居候処七日之夕迄ニ何れも出揃候様相成候ニ付右企相止申候扨此度出訴之根元者高野子村鍵山村之両村ヲ始トシテ連村八ケ村ヨリ起リ立候事故嘆願者右十ケ村ニテ指出呉候様諸村々ヨリ懸合御座候処全根元者高野子村鍵山村ノ両村故都リ右村ヨリ嘆願指出候筈ニ相成申候扨又其節私申出シ候ニ者諸村々往来筋之酒家よりハ酒振舞ニ預候得共未吉田町方よりハ都而贈物も不致候ニ付送呉候様可申遣と発言仕候処此度者嘆願ニ付致出訴候事故其儀ハ決而不宜と指留候者も有之候得共此白髪天意ノ指図する事ニ悪敷事ハ無之と申して高野子三村国郎ニ書状相認させ同町酒家中肴屋中江心遣預度旨且其余之売家江者銀銭借用致度旨申遣し置候而夫ヨリ彼方江酒肴等取ニ可参旨一統江相通候処数十ケ村之者共我先ニと一村ヨリ五七人ツツ罷越酒肴貰受帰申候最銀銭ハ申遣而已ニテ借用不仕候同日又々寄合嘆願相談ニ及ヒ諸村々も不残出揃漸ク嘆願書出来候ニ付其旨御届申上候而九日ニ嘆願書指出候筈ニ相窮リ申候九日三島宮社内江御役人様御出張相成嘆願書指出シ御受取之上御沙汰御座候者明後十一日裁許申渡候に付一ケ村五人組ニ壱人も相残其余之者共速ニ今日引払農事相励可申其内ニ裁許申渡候得者右相残居候者承帰夫々通し合ニ及候得者一統承知可致事故夫か為ニ数百之人数空敷日ヲ費事嘆ケ敷候ニ付急速引払可仕旨再三御説得被仰聞候処其節私申候者何れ当年者作方半作と相心得居候故御裁許有之迄者一統引払不申と発言仕候処一統御沙汰ヲ承服仕候者無御座様罷成申候十一日御裁許被仰渡ニ相成右御達相済猶又被仰聞候者最早願出之儀夫々裁許申付候事故何れも引払可申様御沙汰之上御仮役所江御引取相成候ニ付其跡ニ而延川村卯吉申候者最早引払不申者不相済義ニ押移候ニ未魁首不相分ニ付鑿穿致シ候而者如何哉ト申ニ付私相考候ニ者此度強訴ニ付而者不容易御藩江御苦労相懸ケ殊ニ徒党者御大禁之事故必

定帰村後魁首之者共御召捕相成事無疑ニ然ルニ卯吉私ハ別而衆人ニ先立諸事指図等も仕居候事故定而魁首之者と御役人様御目的に被成居候半と後難ヲおそれ依而卯吉申如く主謀之者共探索シテ相究置候半てハ此身者難儀ニ可及ト心付候而両人ニ而申候者最早御裁許も相済候ニ未魁首ト相定ルもの無之依而其者相究迄ハ一統引払候儀者不相成ト厳敷申語候処都リ高野子村藤吾鍵山村喜代太郎魁首ト相定リ藤吾ニハ同村嘉之寸計庄吉証人ニ相立喜代太郎ニハ同村徳松兼吉と申もの共夫々証人ニ相立申候十二日朝寄合之節私申出シ候者昨日寄合之節魁首相定リ候得共可成余人江者披露致呉間敷様相頼居候ニ付旁以帰村後御召捕ニ茂相成候得者其節ハ鍬鎌等持参シテ又此通リ一統ニ出御召捕不相成様相妨ケ可申と申出シ延川村卯吉も同意之上示合仕何れも可然と同意仕候扨又同朝ニ至リ候テモ右等之相談ニテ未引払不申ニ付而者猶又度々御沙汰筋有之候而同日午時前諸村浦引払ニ相成帰村仕候然ル処五月廿六日御召捕之上引出シ相成入牢被仰付奉恐入候

問

其方儀宮野下村江屯集中主謀嘉之寸計藤吾国三郎等ニ先立鍵山村喜代太郎延川村卯吉申合浦手江誘引之為ニ数百之人数ヲ指向ケ候筈ニ相企居加之嘆願ニ付出村致居候事故別而相慎可罷在処無其儀吉田町家に酒肴等ヲ取ニ遣事ヲ発言シ夫より其悪業ヲ諸村見倣ひ敢憚なく多人数押取同様之所業ニ押移且嘆願取上ケ之上者村々両三人ツツ残置其余之者共者引取農事可相励様重々申聞候ヲ不相用却而其方暴言ヲ吐剰十二日引取之期ニ至リ己之姦悪ヲ隠ンカ為ニ卯吉ト共ニ主謀ヲ探索シ又後日召捕ニ逮之節一統出テ是ヲ妨ント令発言右夫々之条件数ケ村江暨シ候重罪言同断不届至極依之罪科至当之裁許可申何等申訳有之哉

答

被仰聞候条々一々心根ニ徹シ今更後悔聊申訳無御座重々恐入奉存候

弥惣治

後記　本稿起草に際し、山田忠雄氏（慶應志木高）、曽我部幹男氏（愛媛県立図書館）、東田全義氏（慶大図書館）、山本寛巳氏（宇和島吉田高校）、中山勝君、根本敬彦君より種々の御支援をうけた。また古文書の解読には、志木古文書同好会の中田千美氏、柴田純子氏、井出章子氏の御協力を得た。ここに記してその学恩を謝す。

（四月七日稿）